

2021年5月新着情報



海外／国際機関で行われている／行われた興味深いイベント

- **国連: 2021 年世界高齢者虐待啓発デーのテーマは「Access to Justice」(司法へのアクセス) (5/28)**
 - <https://www.un.org/development/desa/ageing/news/2021/05/weaad-3/>
 - <https://www.un.org/development/desa/ageing/world-elder-abuse-awareness-day/2021-2.html> (イベント詳細情報)
 - 毎年 6 月 15 日は、国連で「世界高齢者虐待啓発デー」と制定されている。今年のテーマ「司法へのアクセス」では、司法面での支援を必要とする高齢者のニーズに焦点を当てる。虐待や暴力を受けている高齢者の多くは、司法面での支援にアクセスする際にも様々なバリアに直面しており、そこには物理的バリアのほか、価格、デジタル技術、文化などの壁が存在する。司法へのアクセスは、高齢者の人権へ大きな影響を及ぼすものであり、今年の啓発デーイベントでは様々な側面からこの点を議論する。イベントは 6 月 15 日の午前 9 時(米国東部時間。日本では午後 10 時)よりウェビナー形式で行われ、上記「イベント詳細情報」ページから登録ページに進める。
- **欧州(UNECE): Healthy and Active Ageing in a Sustainable World: Synergies between international initiatives on ageing – one reporting exercise (持続可能な世界におけるヘルシーでアクティブなエイジング: 高齢化に関する国際的な取り組み間のシナジー) (5/19)**
 - <https://unece.org/population/events/healthy-and-active-ageing-sustainable-world>
 - 高齢化に関するマドリッド国際行動計画 20 周年(MIPAA+20)に向けた国連欧州経済委員会(UNECE)主催の第2回ウェビナーでは、MIPAAと高齢化関連の他の国際的な取り組みとのシナジーに重点を置き、特に国連のヘルシーエイジングの 10 年や SDGs などとの関連性について発表が行われた。上記ページからは、様々な取り組みと MIPAA との関連性を考える際の資料や、ウェビナー当日の発表者資料もダウンロード可能。



ILC-Japan または ILC-GA メンバーが関わった／関わっているイベント／取り組み

- **英国: ILC-UK が高年齢就労者関連のイノベーションや政策アイデアの国際コンテストを立ち上げ(5/20)**
 - <https://ilcuk.org.uk/work-for-tomorrow/>
 - <https://ilcuk.org.uk/wp-content/uploads/2021/05/ILC-WFT-Competition-Application-Pack.pdf> (応募ガイド)

- <https://www.f6s.com/workfortomorrow> (応募ページ)
- 高齢労働者の割合は世界中で増加している。G20 全体では 50 歳以上の労働者が全体の 1/3 を占めており、この割合は 2040 年には 4 割に達すると見込まれている。このような労働力の高齢化は、あらゆる年齢層に大きな影響を及ぼしていく。ポスト・コロナで社会を回復させていくためには、年齢にかかわらず全ての労働者のポテンシャルを活用することが重要だが、高齢者の多くは健康問題や介護の役割、エイジズムなど労働市場で様々なバリアに直面している。このため ILC-UK では Innovation Resource Center for HR の支援を得て、国際的なイノベーションコンテスト「Work for tomorrow」を立ち上げた。このコンテストでは世界中から、労働力の高齢化に伴うチャンスや課題に対するイノベーションや政策アイデアを募集する。応募締め切りは、2021 年 9 月 1 日で、上記サイトから可能。テーマは以下 4 点である。
 - ◇ 健康維持
 - ◇ 知識・スキル・能力の構築
 - ◇ 差別への対応および多様性の支援
 - ◇ 働く人に優しい職場づくり



海外での興味深い取り組み・ニュース

- WHO: 認知症に関するグローバル知識交流プラットフォームを世界保健機関(WHO)が立ち上げ(5/5)
 - <https://www.who.int/news/item/05-05-2021-who-launches-new-platform-for-knowledge-exchange-on-dementia>
 - <https://www.alzheimer-europe.org/News/New-publications-and-resources/Wednesday-05-May-2021-WHO-launches-Global-Dementia-Observatory-Knowledge-Exchange-Platform>
 - <https://globaldementia.org/en> (プラットフォーム HP)
 - WHO は 5 月 1 日、Global Dementia Observatory Knowledge Exchange Platform(GDO KE Platform、認知症に関するグローバル知識交流プラットフォーム)を立ち上げた。このプラットフォームでは、WHO の Global action plan on the public health response to dementia 2017 - 2025(認知症への公衆衛生的対応に関する国際行動計画 2017-2025)およびそこに含まれる 7 つの領域を実施するのに役立つリソースを紹介する。プラットフォームでは様々な関係者がリソース(政策、ガイドライン、成功事例など)を共有できるようになっており、認知症に関する学びあいや知識交流を促進する。プラットフォームには誰でも情報を提供でき、提出された内容は、専門家や当事者などによる審査で質を確認した上でウェブに掲載される。情報を検索する際には、国・地域・言語・資料の種類などで絞り込める。利用者はまた、コメントを入れたりリソースの評価を行うこともできる。
- 欧州: 超過死亡は 2021 年 3 月に若干増加(5/12)
 - <https://ec.europa.eu/eurostat/web/products-eurostat-news/-/ddn-20210512-2>

- https://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php?title=Excess_mortality_statistics (詳細報告ページ)
 - EU 諸国では 2021 年、超過死亡が減少傾向を見せており、2020 年 11 月は+41%だったのに対し 2021 年 1 月は+16%、2 月は+5%にとどまった。しかし 3 月に入ると若干増加し+9%であった。同地域では 2020 年 1 月から 2021 年 3 月にかけて、超過死亡で 2 度のサイクルが見られる。1 度目は 2020 年の 3~5 月(4 月には超過死亡が+25.1%)、そして 2 度目のサイクルは 2020 年 8 月~2021 年 2 月(2020 年 11 月には+40.6%)である。3 月の微増で、サイクルに新たな動きが見られる可能性が考えられる。
- **欧州:高齢者のインターネット利用率は？(5/17)**
 - <https://ec.europa.eu/eurostat/web/products-eurostat-news/-/edn-20210517-1>
 - インターネットは近年ますます重要になっており、特に2020年はコロナパンデミックに伴う外出自粛やソーシャルディスタンスの対策によって、その重要性が更に高まった。EU 諸国では 2020 年、16-74 歳の 88%が過去 3 か月以内にインターネットを利用したと回答している。しかし利用率は国ごとに異なり、ブルガリアでは 70%だった一方でデンマークでは 99%だった。年齢別では、16-24 歳の利用率が 98%だったのに対し、65-74 歳では 61%だった。高齢グループの利用率も国ごとに大きく異なり、高い国ではデンマークの 94%をはじめ、ルクセンブルグ、スウェーデンおよびオランダで 90%以上だったが、ブルガリアやクロアチアでは 30%未満だった。
- **【コロナ関連】英国:ケアホームの面会・訪問制限がさらに緩和(5/1, 5/10)**
 - <https://www.gov.uk/government/news/care-homes-residents-allowed-more-out-of-home-visits> (5/1)
 - <https://www.gov.uk/government/news/more-restrictions-eased-for-care-homes> (5/10)
 - コロナ感染者数の減少に伴い、英国ではケアホーム入居者の面会や訪問制限が更に緩和された。まず 5 月 4 日より入居者の施設外訪問が一部可能となり、家族や友人宅を訪問して庭で時間を過ごしたり、外を散歩したりできるようになった。外出の際には、ケアスタッフまたは指名された面会者が同行し、政府ガイドライン(定期的な手洗い、社会的距離の確保、屋外のみ)を遵守しなければならないが、施設へ戻った後に隔離される必要はなくなる。さらに 5 月 17 日からは、面会者の最大人数が 2 名から 5 名に増えた。また病院やデイセンターなどへ行った後でも隔離が不要となった。英国では 2021 年 4 月下旬現在、ケアホーム入居者の 95%が 1 回目のワクチン接種を終了している。
- **英国:オンラインコミュニケーションで認知症予防の可能性を研究が示唆(5/14)**
 - <https://www.theguardian.com/society/2021/may/14/using-zoom-could-help-older-people-avoid-dementia-study-reveals>
 - <https://academic.oup.com/psychsocgerontology/advance-article/doi/10.1093/geronb/gbab029/6145041> (論文全文)
 - コロナパンデミックで孤立しがちな生活が続く中、高齢者たちは(多くの場合は初めて)テクノロジーを駆使し、Zoom で孫に本を読み聞かせたり Teams で読書会を開くようにな

った。最近発表された英国の調査では、このようなオンラインコミュニケーションツールの利用が、認知症予防に役立つ可能性が示唆されている。50～90歳の男女1万人以上を15年間追跡したこの調査では、従来の社会的交流手段(対面や電話)に加えてオンラインコミュニケーションツールを頻繁に使っている高齢者で、認知症で主に見られるエピソード記憶の低下が少なかった。この結果は、他の要因を調整しても同様だった。調査結果は Journal of Gerontology に発表され、上記リンクから閲覧可能。

- **【コロナ関連】英国: イングランドの成人向け社会的ケアに関する月次統計(2021年5月)(5/17)**
 - <https://www.gov.uk/government/statistics/adult-social-care-in-england-monthly-statistics-may-2021>
 - 英国政府は試験的に、イングランドの成人向け社会的ケアに関する月次統計発表を開始した。今回の2021年5月発表分が、第1回目である。以下のように、ワクチン接種や感染管理に関する統計をまとめているほか、関連の詳細データ表もダウンロード可能。今回発表分の主な統計情報は、以下の通り。
 - ◇ 高齢者ケアホームでのワクチン接種率(2021年4月27日現在で1回以上): 入居者は94.6%、職員は81.0%
 - ◇ 感染対策(4月26日までの1週間): 入居者への面会が可能なケアホームの割合は、イングランドで82.5%となっており、3月初旬の40.3%より大幅に上昇。また83.6%のホームでは、自己隔離が必要なスタッフに給与を全額支払っており、この割合は2020年12月中旬よりほぼ変化なし。
 - ◇ ケアホームでのコロナ検査(4月27日までの1週間): スタッフに対しては、480,530回のPCR検査および505,822回のラテラルフロー検査(LFT)を実施。陽性結果は、PCR検査で319件、LFTで411件となっており、どちらも今年1月中旬より大幅に減少。入居者に対しては、78,417回のPCR検査および7,905回のLFTを実施。陽性結果はPCRで121件、LFTで14件となっており、今年1月中旬より大幅に減少。
- **英国: 文化的に適切なケアに役立つオンライン資料ページをケアの質委員会(CQC)が立ち上げ(5/20)**
 - <https://www.cqc.org.uk/news/stories/cqc-launches-new-online-resource-support-culturally-appropriate-care>
 - <https://www.cqc.org.uk/guidance-providers/adult-social-care/culturally-appropriate-care>
 - 文化的に配慮したケアは常に大切であるが、コロナパンデミックではその重要性が更に増している。ケアサービスを利用する高齢者たちは、パンデミックによって、自らの文化を理解する家族や友人との触れ合いが従来のようにできなくなっている可能性があるためである。そこでCQCではケア事業者向けに、文化的に適切なケアに関する最新情報の紹介ページを立ち上げた。ここでは文化的に適切なケアの重要性やキーポイント、また具体的な例や成功事例も紹介している。
- **【コロナ関連】英国: 「コロナ感染予防では部屋の換気を」と政府がキャンペーンを開始(5/17)**
 - <https://www.gov.uk/government/news/public-reminded-to-let-in-fresh-air-when-meeting-others-indoors-to-reduce-the-spread-of-covid-19>

- 英国ではコロナ感染者の減少に伴い、5月17日より規制が緩和され、6人または2世帯が屋内で集まれるようになったほか、屋内でのサービス業も再開できるようになった。しかし2021年5月に2,000人の成人へ行った調査によると、成人の4人に1人は「屋内にいる時には窓を開けることでコロナ感染拡大を防ぐ」という点について信じていなかったり分からなかったりしていた。政府では規制緩和の開始に合わせて広報キャンペーンを開始し、テレビ・ラジオ・新聞・デジタルメディアなどを通じて、個人や事業者へ部屋の換気を呼びかけている。上記の調査では他にも、以下のような結果が示された。
 - ◇ 19%:なぜ屋内よりも屋外で人と会った方がよいのか分からない人の割合
 - ◇ 21%:屋内よりも屋外の方が、コロナ感染リスクが低いことを知らない人の割合
 - ◇ 46%:換気によってコロナの飛沫が吹き飛ばされることを知らない人の割合
 - ◇ 15%:屋外にいればコロナは感染しないと誤解している人の割合
 - ◇ 50%:ウィルス拡散リスクを抑えるために、1日を通して窓を定期的に開けるべきであることを認識している人の割合
 - ◇ ドアや窓を開ける頻度:30%は1日2~3回、26%は1日1回、16%は2~3日に1回

● **【コロナ関連】英国:自己隔離を更に支援する新たな試験的取り組みを政府が開始(5/24)**

- <https://www.gov.uk/government/news/government-launches-new-pilots-to-further-support-people-to-self-isolate>
- 変異株などによりコロナの感染状況が予断を許さない中、感染が深刻な地域で人々が自己隔離策を十分にとれるよう、政府はイングランドで新たな試験的取り組みを開始する。自治体と協力して行われるこの取り組みで政府は1,200万ポンド拠出し、この資金はたとえば住居や追加的な社会的ケア、言語面での支援などに使われる。このような取り組みによって、感染リスクの高い人たちが進んで検査を受け、陽性の場合には自己隔離をしっかりと行えるようにすることを目指している。

● **米国:出生数・出生率が記録的な低さに(5/5)**

- <https://apnews.com/article/birth-rates-science-coronavirus-pandemic-health-d51571bda4a02eafdd42265912f1202>
- <https://www.cdc.gov/nchs/data/vsrr/vsrr012-508.pdf> (米国疾病管理予防センター[CDC]報告)
- CDCが発表した速報値によると、2020年の出生数は約360.5万人で、2019年より4%減少し、出生率も同様に4%減少した。これは米国で記録的な年間減少である。合計特殊出生率は1.64であり、これも前年より4%減少し記録を更新した。年齢や人種などを問わずに減少が見られ、近年では若干の増加傾向にあった30~40代による出産も減少した。コロナパンデミックがこの減少の大きな要因であることは疑いようがない、と専門家は述べているが、同時期における妊娠の多くがパンデミック発生以前に起きているため、CDCではさらに詳細を分析中とのことである。



海外／国際機関で最近発表された法律・規則・提言など

- **中国: 出産制限を緩和し 3 人まで容認の方針(5/31)**
 - <https://apnews.com/article/china-bd12b9c524853f33cca8db3a6930b936>
 - <https://www.jiji.com/jc/article?k=2021053100718&g=int> (日本語記事)
 - 中国共産党は 5 月 31 日の中央政治局会議で、1 組の夫婦に子供を 2 人まで認める制限を 3 人までに緩和する方針を示した。国営新華社通信が伝えた。中国は 2016 年に「一人っ子政策」を撤廃し、「二人っ子政策」を導入した。しかし、少子化の流れに歯止めはかからず、「三人っ子政策」の効果は不透明である。同会議ではまた、退職年齢引き上げについても合意しており、労働力の確保や年金制度の改善を図る。

- **オーストラリア: 数十年に一度の高齢者ケア改革で 177 億豪ドルを予算割り当て(5/11)**
 - <https://www.health.gov.au/news/budget-delivers-177-billion-for-once-in-a-generation-change-to-aged-care-in-australia>
 - <https://www.health.gov.au/initiatives-and-programs/aged-care-reforms> (高齢者ケア改革 HP)
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/respect-care-dignity-a-generational-plan-for-aged-care-in-australia> (計画のまとめへのリンク)
 - 高齢者ケアの質と安全性に関する王立委員会による最終報告を受けて、政府は高齢者ケア改革パッケージに 177 億豪ドルの予算を割り当てた。この改革では、良質で公平な高齢者ケアを提供し、高齢者へ敬意・ケア・尊厳を届けていく。改革は以下の 5 本柱からなり、5 年かけて取り組む。
 - ◇ 在宅ケア: 自宅生活の継続を望む高齢者の支援
 - ◇ 施設高齢者ケアと持続可能性: 施設高齢者ケアサービスとそのアクセスの改善および単純化
 - ◇ 施設高齢者ケアの質と安全性の向上
 - ◇ 人材: より質の高いケア人材の支援と開発
 - ◇ ガバナンス: 新たな法制とより強力な人材
 - 上記予算の主な用途は、以下の通り。
 - ◇ 65 億ドル: 在宅ケアパッケージの 8 万人分追加
 - ◇ 39 億ドル: 高齢者介護施設の現場職員増加
 - ◇ 32 億ドル: 事業者のケアサービス向上支援など
 - ◇ その他、社会的弱者支援、医療と介護施設の移行支援改善、職員研修(特に認知症ケア)などに割り当て



海外／国際機関で最近発表された／近日発表される
報告書・ガイドブックなど

- **世界: From Plan to Impact IV Progress towards targets of the WHO Global action plan on dementia(計画からインパクトへ IV: 認知症に関する WHO 国際行動計画の目標達成に向けた進捗状況) (5/26、国際アルツハイマー病協会[ADI] 報告書)**

- <https://www.alzint.org/resource/from-plan-to-impact-iv/> (全文へのリンクあり)
- 認知症への公衆衛生的対応に関する国際行動計画 2017-2025 が中間地点にさしかかる中、「計画からインパクトへ」報告書第 4 弾では、これまでの進捗状況やバリア、推進要因をまとめている。また、世界の認知症関係者たちがいかにして政府と協力して取り組みを加速化させ、国の認知症計画を進められるかについても検討しているほか、COVID-19 が認知症の当事者や家族、そして国の認知症計画に及ぼす影響も分析している。主な結果は以下の通り。
 - ◇ WHO に加盟し全国認知症計画策定にコミットした 194 か国のうち、これまで実際に策定したのはわずか 32 か国である。
 - ◇ 2025 年までに WHO が目標とする 146 か国を達成するには、毎年 28 か国が計画を策定する必要がある。
 - ◇ COVID-19 による混乱で、脆弱な経済やインフラから生じる中低所得国での医療や社会的ケアの限界が浮き彫りとなった。
 - ◇ COVID-19 によって、あらゆる年齢層で認知障害が見られるようになり、今後さらに認知症の人が増加する可能性があることから、全国認知症計画の重要性は更に高まる。
- **英国:Prevention in social care (社会的ケアにおける予防) (2021 年 5 月、Social Care Institute for Excellence 報告書)**
 - <https://www.scie.org.uk/prevention/social-care> (全文へのリンクあり。ただし事前の無料登録必要。)
 - 社会的ケアでの予防とは、人々が自らの健康やウェルビーイングへより積極的に取り組むよう後押しすることである。これにより自立度を高められるほか、ケアや支援サービスへのニーズを減らしたり遅らせたりできる。この報告書は地方自治体のコミッショナーや管理者向けに作成されており、予防におけるコミッショナーや実務者の役割や協働によるアプローチ、具体的な実践例、最新の研究結果などを紹介している。
- **英国:Enabling age at work – How ageism and ableism overlap in the workplace (職場におけるエイジズムと障害者差別の重なり) (5/13、ILC-UK 報告書)**
 - <https://ilcuk.org.uk/enabling-age-at-work/> (全文へのリンクあり)
 - https://www.youtube.com/watch?v=zFyctJ_Swuk
 - この報告書では、高年齢労働者が感じる年齢差別や障害者差別、またそのような認識が将来の就労計画に及ぼす影響についてまとめている。主な結果は以下の通り。
 - ◇ 雇用者も高年齢労働者も多くの場合、研修や能力開発が若者向けであると感じており、その結果として高齢者は、スキル強化や経験の共有を行うチャンスを逃している。
 - ◇ 年齢と共に障害のリスクは高まるため、労働衛生での支援がカギとなり、障害の社会モデルを認識した継続的な支援が必要とされる。
 - ◇ 労働力の高齢化へ対応するために、雇用者は包摂的な職場環境づくりに取り組まなければならない、管理者や職員に対して障害の社会モデルを周知し、それを職場に落とし込む必要がある。

- **【コロナ関連】英国: Briefing paper on the Tackling Loneliness Network(孤独対応ネットワークに関する報告書)** (5/23、Independent Age およびアルツハイマー協会の報告書)
 - <https://www.independentage.org/policy-and-research/tackling-loneliness-network> (全文へのリンクあり)
 - デジタル・文化・メディア・スポーツ省は 2020 年、COVID-19 による孤独へ対応するため [Tackling Loneliness Network\(※\)](https://www.gov.uk/government/publications/emerging-together-the-tackling-loneliness-network-action-plan)を立ち上げた。同ネットワークがこの度発表した報告書では、コロナ禍の中で孤独に直面し闘う本人、ボランティアおよび組織のレジリエンスについてまとめているほか、政府や企業、ボランティア・セクターに対し、短期および長期的な対策を提案している。
(※) [Tackling Loneliness Network のサイト](https://www.gov.uk/government/publications/emerging-together-the-tackling-loneliness-network-action-plan)
<https://www.gov.uk/government/publications/emerging-together-the-tackling-loneliness-network-action-plan>

- **英国: Making the extra years count – Inequalities in disability and dependency with increasing longevity(長生きした分を大切に: 長寿に伴う障害と依存の不平等)** (5/26、ILC-UK 報告書)
 - <https://ilcuk.org.uk/making-the-extra-years-count/> (全文へのリンクあり)
 - 英国政府は、2035 年までに健康寿命を 5 年のばすことを目標に掲げた。しかし、この目標達成については既に疑問の声があがっており、現在はコロナパンデミックのため目標を見直す可能性が考えられる。この報告書では、1991 年から 2011 年までの寿命、障害および依存の傾向を分析するほか、これらの傾向が長期的な状況や社会経済的不平等とどのように関係しているかについて検討する。主な結果は以下の通りであり、知見に基づき、予防による格差縮小を提案している。
 - ◇ この数十年間にわたり男女とも、寿命に関する多くの指標で改善が見られた。
 - ◇ しかし、病気や障害の期間が増加している一方で、健康かつ障害のない期間の割合が減少している。
 - ◇ 65 歳時の健康余命を見ると、1991 年と 2011 年の間で社会経済的グループ間の格差が 3 倍に広がった。

- **米国: Long-Term Care in America: Americans Want to Age at Home(米国の介護: 人々は在宅生活の継続を希望)** (5/3、The Associated Press National Opinion Research Center 報告書)
 - <https://apnorc.org/projects/long-term-care-in-america-americans-want-to-age-at-home/> (全文へのリンクあり)
 - <https://abcnews.go.com/US/long-term-care-industry-facing-pandemic-pushes-families/story?id=77530232>
 - 2021 年 3 月下旬、全国の 18 歳以上 1,113 人を対象に行われた調査では、大半の回答者が自宅で介護を受け続けたいと望んでいることが示された。コロナパンデミックでナーシングホームが特に大きな打撃を受けたものの、最近ではワクチン接種が進み、安全面での懸念は減少していたにもかかわらず、回答者の 88%は、自宅や家族の家で介護を受けたいと感じていた。在宅生活継続の希望を反映し、回答者の 6 割以上が政

府運営による介護保険など様々な介護関連政策を支持している。一方で、自分たちの老後や介護に向けて準備を十分に行っている人は殆どいなかった。政策に関する知識でも誤解が見られ、メディケアで提供される継続的な生活支援は限定的であるにもかかわらず、40歳以上の49%は、介護費用の支払いでメディケアに頼ると回答していた。

- **【コロナ関連】米国: COVID-19 in Nursing Homes: Most Homes Had Multiple Outbreaks and Weeks of Sustained Transmission from May 2020 through January 2021 (ナーシングホームにおける COVID-19: 2020年5月~2021年1月で大半の施設が数週間にわたる感染拡大を複数回経験) (5/19、アメリカ会計検査院[GAO]報告)**
 - <https://www.gao.gov/products/gao-21-367> (全文へのリンクあり)
 - 米国疾病管理予防センター(CDC)のデータを GAO が分析したところ、2020年5月から2021年1月までの間、多数のナーシングホームがコロナ感染拡大(アウトブレイク)を複数回にわたり経験していたことが分かった。CDC の定義によるとアウトブレイクは、入居者または職員のコロナ感染が施設で新たに報告された週に始まり、新たな感染者が2週間確認されなかった時点で終了する。分析の結果、上記8か月の間、ナーシングホームでは平均して感染拡大を約3度経験しており、全体の94%(13,380か所のうち12,555か所)では2度以上経験していた。各施設で経験した感染拡大の最長期間を見ると、全体の85%(11,311か所)で5週間以上続いていた。感染拡大が長期にわたった施設での平均感染者数は56人だった一方、短期で感染拡大を抑えられた施設での平均感染者数は13人だった。また施設全体の66%(8,720か所)では、感染拡大は職員から始まっていた。

- **オーストラリア: Australian Government response to the final report of the Royal Commission into Aged Care Quality and Safety (高齢者ケアの質と安全性に関する王立委員会最終報告への政府回答) (5/11、政府報告書)**
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/australian-government-response-to-the-final-report-of-the-royal-commission-into-aged-care-quality-and-safety> (全文へのリンクあり)
 - 2021年3月新着状況で紹介した通り、高齢者ケアの質と安全性について王立委員会が最終報告を発表したことを受け、政府ではそれぞれの提言に対応する形で回答をまとめ発表した。委員会提言は、在宅および施設での高齢者ケアの質と安全性の向上を目指すものである

- **オーストラリア: National Aged Care Mandatory Quality Indicator Program Manual (全国の高齢者ケアに関する質の指標プログラムマニュアル) (5/24、政府マニュアル)**
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/national-aged-care-mandatory-quality-indicator-program-manual> (全文へのリンクあり)
 - https://www.health.gov.au/sites/default/files/documents/2021/05/qi-program-poster-quality-indicator-qi-program-poster_0.pdf (質の指標に関する啓発ポスター)
 - このマニュアルは、政府補助金を受給している高齢者施設事業者を対象としており、それぞれの質の指標について、定義やデータ収集・提出方法を具体的に説明している。

2019年に第1版が発表されたが、2021年7月1日からの法改正に伴い、この度第2版が発表された。内容としては主に褥瘡、身体拘束、想定外の体重減少、転倒、服薬管理がカバーされている。また5月27日には啓発用ポスターも発表された。

- オーストラリア: Evaluation of the Aged Care System Navigator Measure – Final Report (高齢者ケアシステムにおけるナビゲーション対策の評価—最終報告書) (5/31、Australian Healthcare Associates 報告書)

- <https://www.health.gov.au/resources/publications/evaluation-of-the-aged-care-system-navigator-measure-final-report> (全文へのリンクあり)
- 多くの高齢者が、ケアサービスへのアクセスに困難を抱えていることから、その対応策として Aged Care System Navigator (ACSN、高齢者ケアシステム・ナビゲーター) の取り組みが試験的に行われた。この報告書では、様々なナビゲーションモデルに関する最終的な評価をまとめている。分析は、2019年2月末から2021年2月初旬までのデータに基づいて行われた。最終報告では、2020年10月に発表された [中間報告\(※\)](#) からの更新情報や、取り組みのアウトカム、他のシステムナビゲーターモデルの精査、関係者の視点に関する報告、今後の高齢者ケアナビゲーションサービスの参考となる重要な原則や要素の特定などがカバーされている。

(※) 中間報告のサイト

<https://www.health.gov.au/resources/publications/aged-care-system-navigator-acsn-measure-interim-evaluation-report-executive-summary>



SDGs 関連情報

- 上記「海外／国際機関で行われている／行われた興味深いイベント」の UNECE イベント参照。